

「第40回木と暮らしのふれあい展」への出展

関東森林管理局東京事務所

令和5年10月21日（土）と22日（日）の両日、「第40回木と暮らしのふれあい展」（主催：東京都・（一社）東京都木材団体連合会、後援：林野庁、東京都緑化推進委員会、協賛：関東森林管理局東京事務所など）が江東区の都立木場公園で開催されました。美しいアルプホルンの音色とともに開会式が始まり、主催者や江東区長の挨拶のほか青山林野庁長官が祝辞を述べました。

会場となる都立木場公園とその周辺は、その名前の由来のとおり江戸時代から公園ができる約50年前までは多くの材木店や水中貯木場があって、木とゆかりが深い地域です。この催しは、「木づかい推進月間」である10月に「森を育てたい。だから木を使おう。」をメインテーマに、東京都の木材関係団体等が出展し、今回で40回となる歴史と伝統のある祭典となっています。

新型コロナウイルス感染症の影響で4年ぶりの待ちに待った開催となりました。各種の木工教室や多摩産材などの国産木材を使った製品の展示販売、木材の掘り出し市、木の角材を使った樹種当てクイズ、パネル展示、木のおもちゃで遊べるブース、キャラクターショー等多彩な展示や催しが行われました。親子連れなどが木とのふれあいを楽しみ、大変な賑わいを見せていました（主催者発表：来場者数3万人）。各団体のブースで行われた木工教室の中には、キットを使って作る木工のほか本格的な棚なども作製できるブースなどもあり、たくさんの方が挑戦していました。

事務所でもブースを出展し、関東森林管理局や高尾森林ふれあい推進センターの広報誌、国有林にある世界自然遺産のワークブックや東京事務所のHPに掲載している木造建築物の紹介を冊子にしたものなどを配布し国有林のPRに努めました。→次ページ



東京事務所のブースに立ち寄る青山林野庁長官



大盛況な東京事務所の体験コーナー

また、職員が集めたどんぐりなどの木の实、松ぼっくり、木の輪切りなどを自由に使って工作したり、ミニリースを飾り付けする「森林クラフト体験コーナー」を設けました。整理券配布開始の時間には列が出来るほどの人気でたくさんの方に作製体験をしていただき、笑顔の絶えない時間となりました。子供より夢中になってミニリースの飾り付けをするお母さん、2日とも来て作製する方もいました。中には楽しみにしてお越しいただいたにもかかわらず、満員のため今回の体験を見送った方もおり、大変申し訳なく思っております。

さらに、緑の募金にご協力していただいた方にはツキ板クラフトのキット、ツキ板で作った缶バッチ、大きな松ぼっくりのツリーキットなどを配布しました。緑の募金にご協力いただきありがとうございます。

なお、作品の一部は別のページでご紹介していますのでご覧ください。



参加者のクラフトの様子